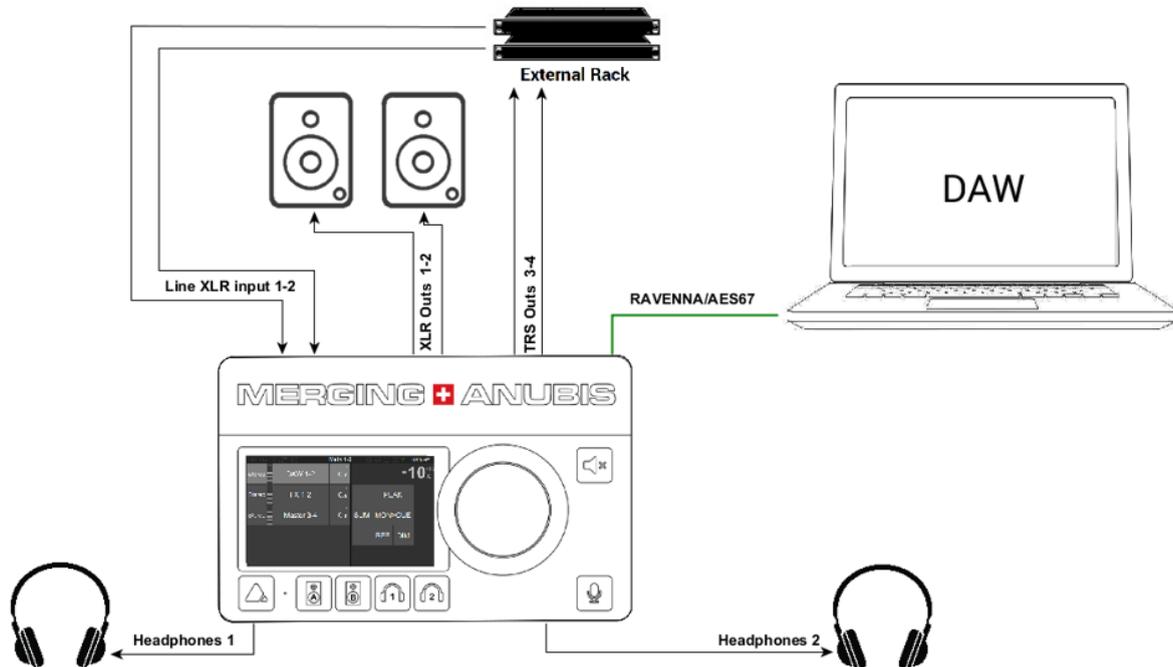




MASTERING ANUBIS & DAW SETUP



Setup

このセットアップで Anubis は、モニタリングとマスタリングの両方に使用されます。また、外部アナログ機器のインサートも行います。

DAWのプレイバックはAnubisのSource “DAW 1-2” で再生されます。

Anubis は Anubis 本体のXLR 1-2 に接続された リファレンス モニター でDAWを再生します。

外部アナログ機器には Anubis のTRS出力3-4から信号を送り、Combo 1-2 に外部機器からの信号を入力します。

DAWはマスタリングした音を録音します。この音は Anubis で Source を “FX 1-2” (Pre VST/VS3) または “Master” (Post VST/VS3) を選択するとで聴くことができます。

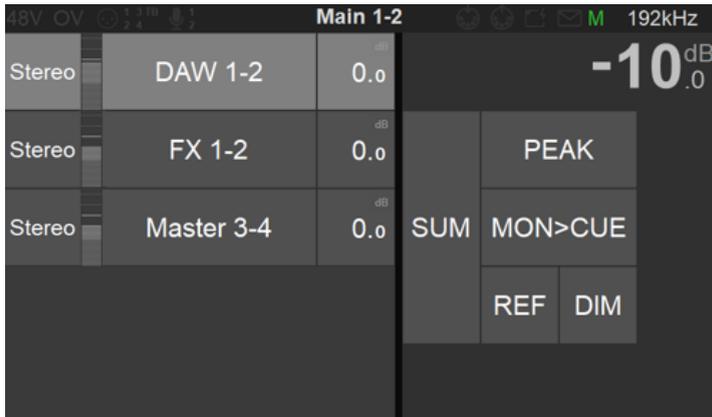
必要なもの

Merging Audio Device ドライバーをインストールしたPC または RAVENNA Virtual Audio Driver をインストールしたMac

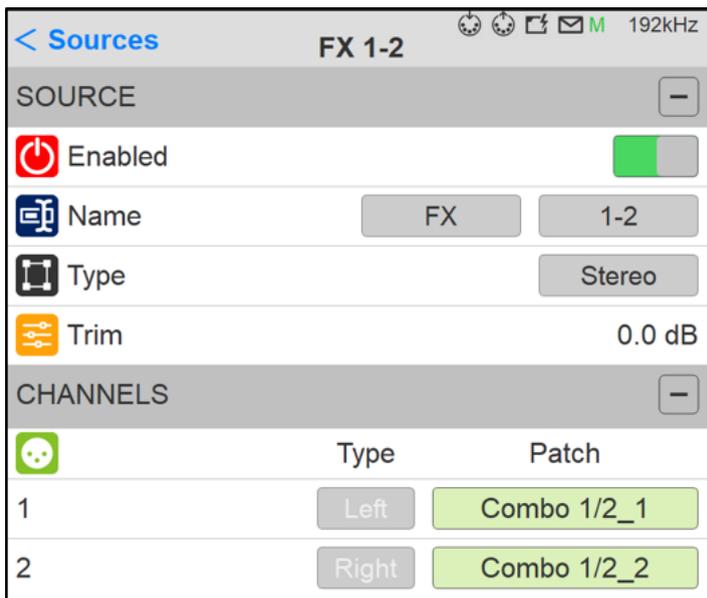


手順

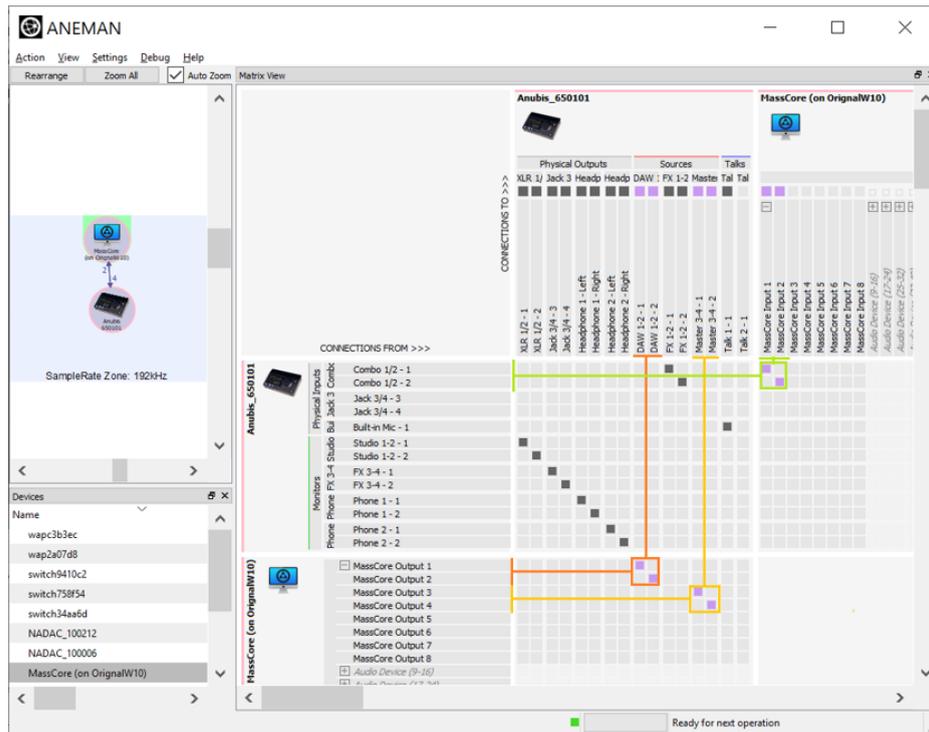
1. 次の様に、3つの“Source”を作成してください。



2. Anubis の Home ボタンを長押しして、Settings > Source に入ります。そこで次のものを作成します。
 - a. DAW 1-2: この Source は、外部エフェクトへ送り出す前の DAW のプレイバックです。ソースがステレオなら、Stereo を Type に選択してください。
 - b. FX 1-2: この Source は、外部エフェクトからのリターンである Combo 1-2 に接続した信号に設定します。



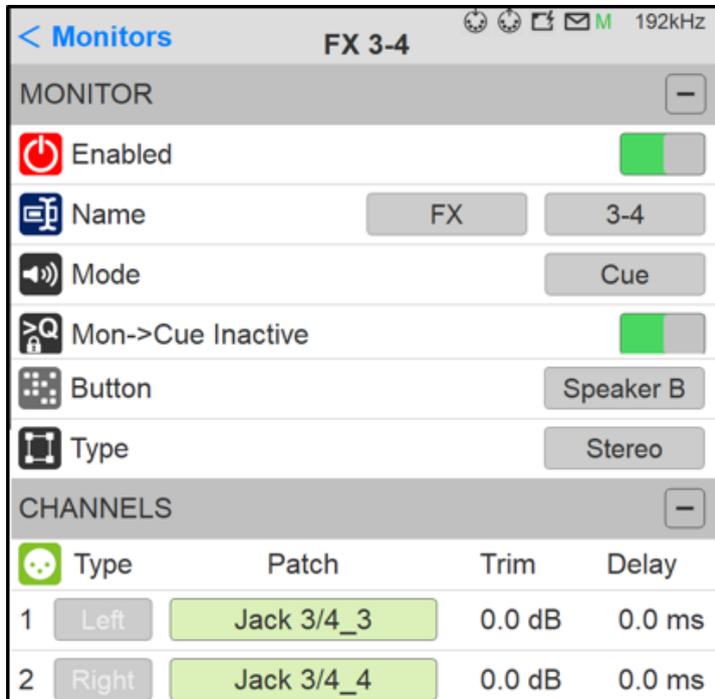
- c. Master 3-4: これはファイナル マスターの音に設定します。外部インサートの後で、DAW の VST/VS3エフェクトの後の音です。これにも Stereo を Type で選択してください。
3. ANEMAN を起動して次の図の様に Source と PreAmp を接続してください。この例では、MassCore を使用した Pyramix との接続を例にしていますが、Merging Audio Device (ASIO) や RAVENNA VAD (CoreAudio) を使用している場合でも同様です。
 - a. “MassCore Output 1-2” は、“DAW” の Source に接続してください。
 - b. “MassCore Output 3-4” は、“Master” の Source に接続してください。
 - c. Anubis の “Combo 1-2” は、“MassCore Input 1-2” (または ASIO/VAD Input 1-2) に接続してください。



Note: "Combo 1-2 Output" から "FX 1-2 Input" に接続されているグレイのブロックは、Anabis の内部接続を表しています。



4. 次に Settings > Monitor を開いてください。
 - a. “Main 1-2” は、スピーカーに接続していますので、デフォルトのまま XLR 1-2 に Mode を “Speaker” として内部ルーティングしておいてください。
 - b. “Line 3-4” を外部エフェクト送りに使用しますので、Mode を “Cue” に変更してください。Name も変更していただいて結構です。Patch はそのまま “Jack 3-4” で結構です。

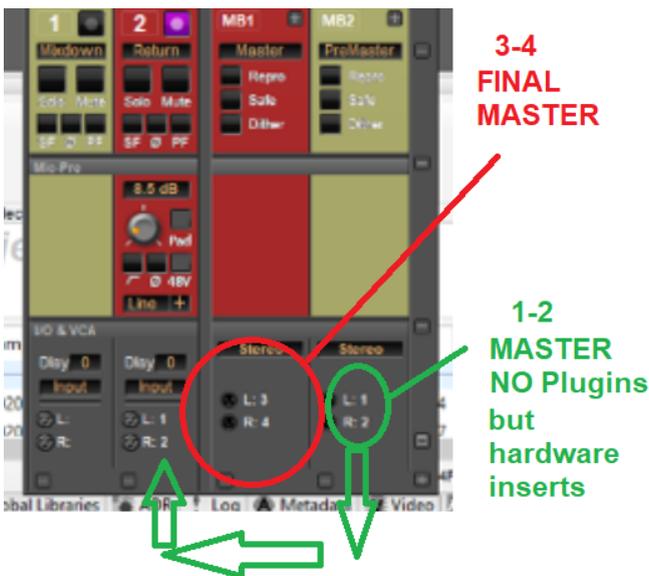
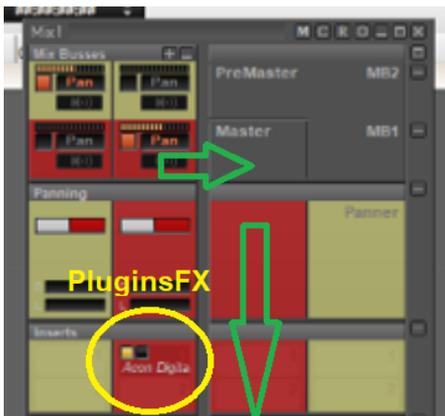
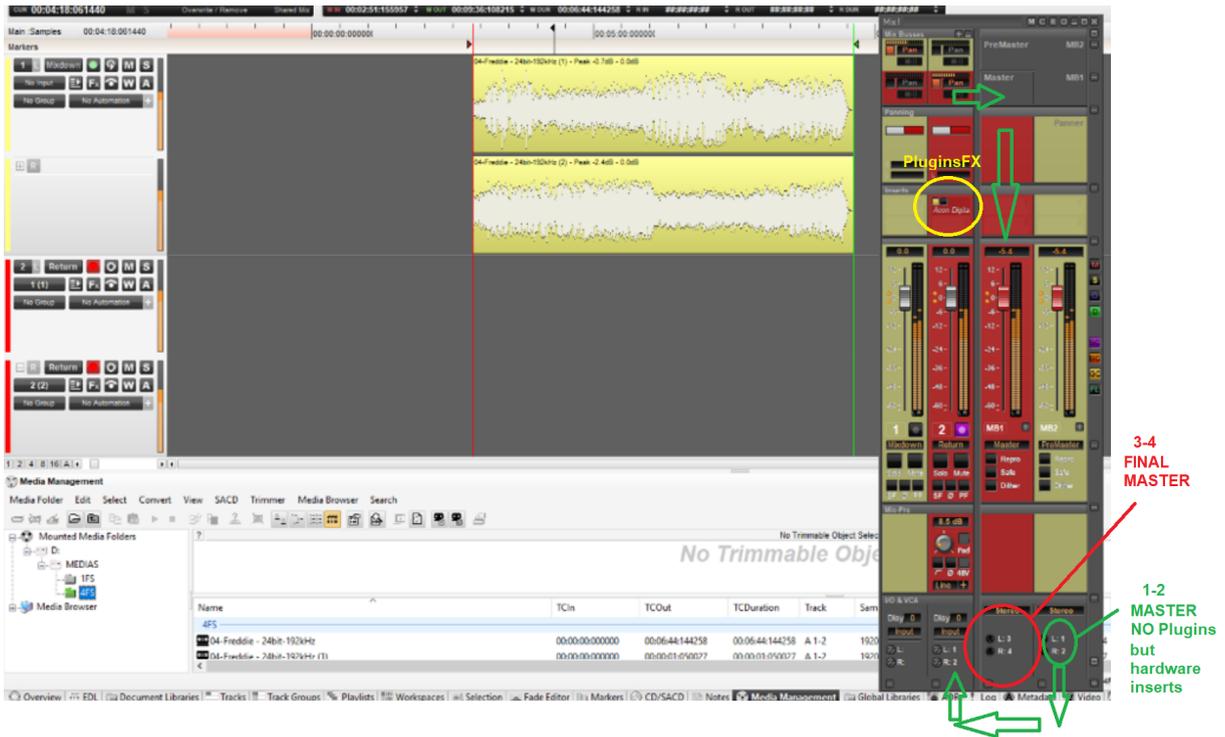


Note: フィードバックを避けるため、*Mon->Cue Inactive* を入れてください(*Mon->Cue* ができなくなります)。

5. 以下の例に従って、DAWとミキサーを設定してください。

Pyramixユーザーは、[Anubis_Mastering_Project.pmx](http://www.pyramix.com/Anubis_Mastering_Project.pmx) から入手できるテンプレートを使用できます。

 - a. Strip 1 はDAWのプレイバックですが、MB2にアサインされ、そのバス出力 (MassCore Output 1-2) から Anubis の Source “DAW” に信号が流れます。
 - b. Strip 2 の入力 (MassCore Input 1-2) は、Anubis の “Combo 1-2” からの信号(これは外部エフェクトのリターンです)が入ってきます。この音はPyramixのトラック3-4に録音され、MB1 から MassCore Output 3-4 に出力されます。
 - c. MassCore Output 3-4 は、前のセクションで Anubis の Source “Master 3-4” に流れていきます。



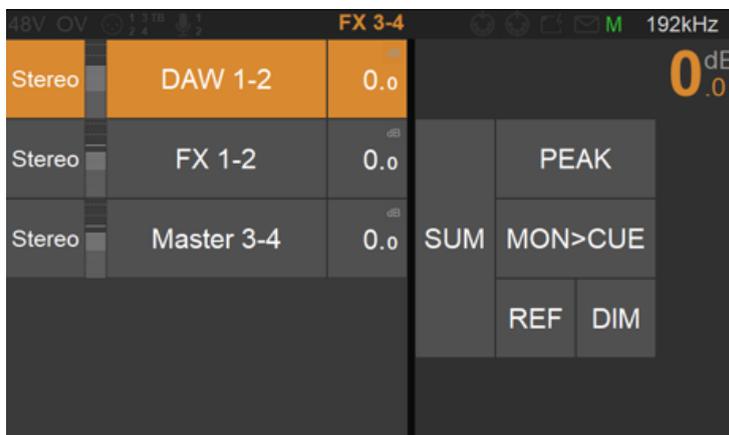


Note: この例では、プラグインをPyramixミキサーに入れて使用しています。このプラグインのポストを録音したいので、ミキサーの Strip 2 上で必ず “Record Post Effects” に設定してください。

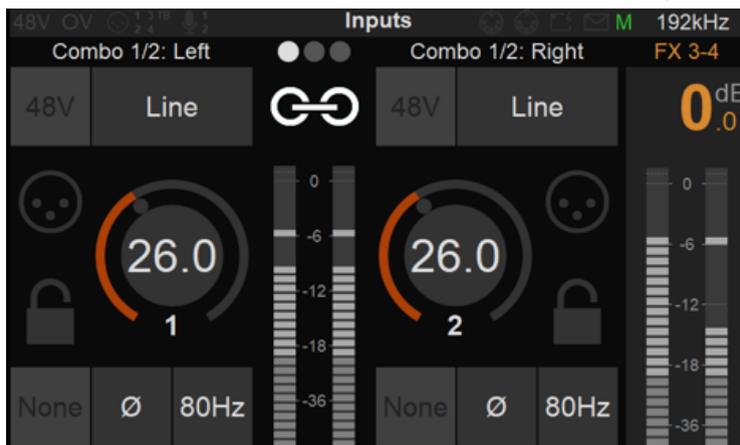


- Anubisに戻ります。FX 3-4のソース選択を構成するために、Anubis本体の Speaker B ボタンを選択してください。
- Source 選択ページで、“FX 3-4 Cue” で、“DAW 1-2” をソースに選択してください。これは、DAWのプレイバックが常に外部エフェクトチェーンに送られるようにするためです。

Note: 外部エフェクトへの出力レベルの調整が終わったら、このモニターセットのレベルを変更しないでください。



- 外部エフェクターからのリターンのレベルを調整するには、Anubis PreAmpで行います。PreAmpのレベルにアクセスするには、ホームボタンを長押しして、PreAmpを開いてください。



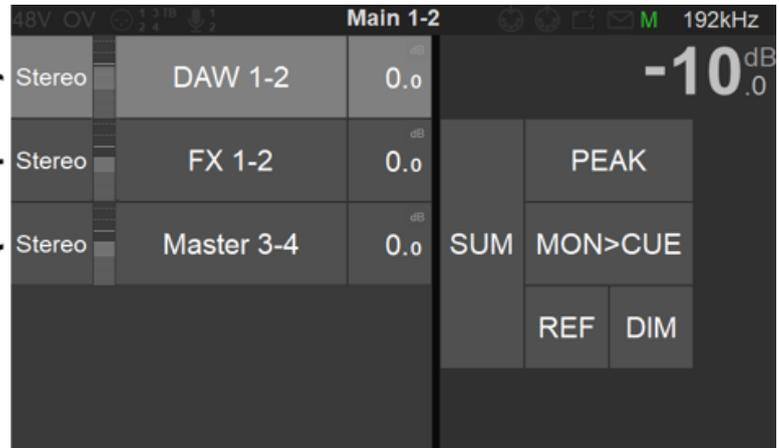


9. セッションのモニタリングレベルは Speaker A ボタンを押してロータリーボリュームで行ってください。モニターソースを選択するだけで、スピーカーまたはヘッドフォンを使用して選択したソースをモニターすることができます。
 - a. **DAW 1-2** を選択すると、DAWのプレイバックの音が聴けます。
 - b. **FX 1-2** を選択すると、外部エフェクターをかけた音が聴けます。
 - c. **Master 3-4** を選択すると、外部エフェクトとプラグインがかかった音が聴けます。

**Monitor the DAW 1-2
mix pre-mastering**

**Monitor the FX 1-2
mix analog chain return**

**Monitor the Master 3-4
mix Bus Final Master**



Mid/Side と Mono のチェック

現在のAnubisでは、AnubisでMONOダウンミックスを有効にしてLとRのソロチャンネルチェックを行うと、ソースLとRのミュートやソロではなく、スピーカーがミュートされてしまいます。

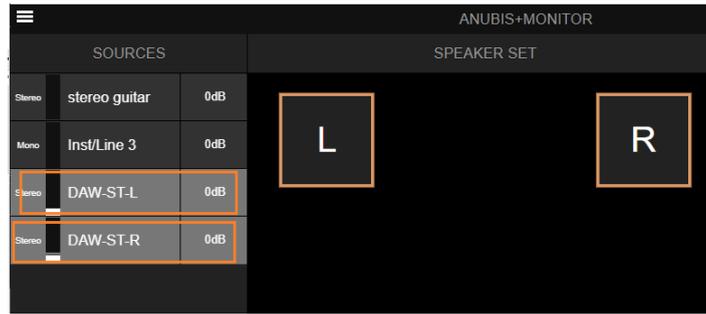
現在の Monitoring Mission のソースで、ミッドチャンネルとサイドチャンネルをより良くマスタリングコントロールするためには、2つのソースを作成し、モノラルでマスタリングソースの確認やサイドの位相チェックを行うために、それらを有効または無効にする必要があります。

手順:

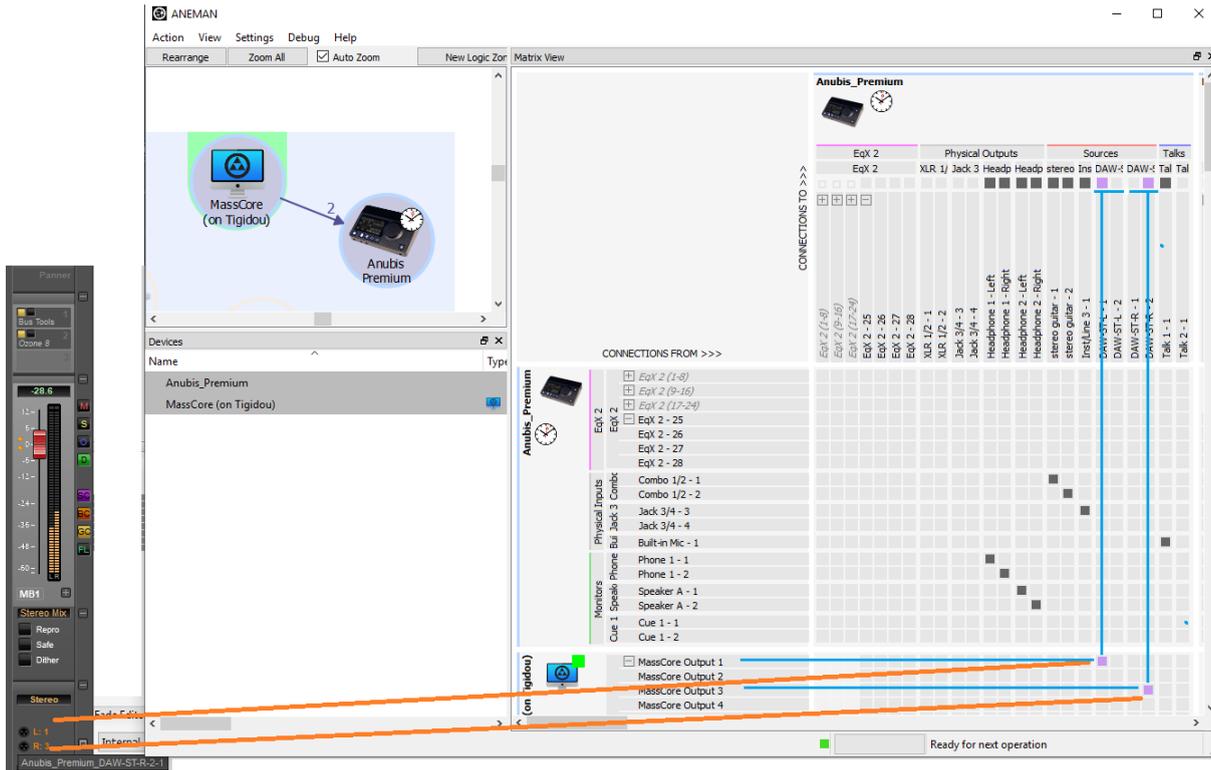
1. 2つの Stereo Source を DAW として作成します。



2. これらを DAW-ST-L と DAW-ST-R と名前をつけます (Webブラウザで名前は変更できます)。



3. ANEMAN で各Sourceの 1chのみを使用している DAW の出力に割り当てます。



4. これらを Sum し、Monoにすることで Phase, Side, Mid の確認ができます。

Source の確認をする際には、Anubis のTFTやWebアクセスページで DAW-ST のソースの1つを選択解除してください。こうすることで、両方のスピーカーがモノラルで動作したままになり、左チャンネルまたは右チャンネルのみを分離することができます。

Note: 同様の方法はマルチトラックでも使用できます。